

ひとはく通信

ハーモニー

112

Mar.2021

特集 地震断層を守り、活かす



山崎断層帯・安富断層の地下断面のはぎ取り標本（兵庫県防災センターに展示）

大地震で生じた漏斗状の落ち込みが重なり、この断層が何度もずれ動いてきたことがわかる

— 標本の3Dモデリング —

3Dモデリングとは、コンピュータの中に立体物のモデル(3Dモデル)を作成し加工する技術です。工業製品や建造物の設計、映像作品、ゲーム、医療など様々な形を扱う分野で用いられていますが、博物館に収蔵されている標本にも使われています。化石骨などの標本の内部構造の研究には、コンピュータ断層撮影像(CT画像)から作成された3Dモデルが用いられます。標本の表面形状の研究に関しては、レーザー光を物体に照射するレーザーキャナーや通常のカメラで撮影した多

数の写真から3Dモデルを作るフォトグラメトリー法があります。3Dモデリングは恐竜など大型動物化石の復元骨格の作成にも威力を発揮します。図に示した三重県総合博物館にあるミエゾウの復元骨格はその一例です。ミエゾウの化石は三重県などで発掘されていますが、未発見部位が多く、そういった部位については祖先種と考えられる中国産のコウガゾウの全身骨格化石を参考に3Dモデルを作成しました。

三枝 春生(自然・環境評価研究部)



図 ミエゾウの復元骨格の3Dモデル



写真 3Dモデルから作成したミエゾウの实物大復元骨格

— with コロナ時代に向けた博物館の挑戦 —

新型コロナウイルス感染症の感染発表から間もなく1年が経とうとしています。この1年間はひとはくにとって、来館者の安全と安心を確保するための挑戦の日々となりました。

6月の再開館以降、来館者への様々な感染防止対策を実施してきました。館内各所に消毒液を設置し、感染防止を促すための館内表示、立ち位置表示によるソーシャルディスタンス確保の啓発や、入館時における検温設備の整備を実施しました。また、ひとはくの魅力の一つである各種セミナーの実施に向けても同時に動き出しました。会場の座席の間隔を空けると共に、換気や消毒などを行いました。

数々の対策を講じた結果、今では再び多くの来

館者をお迎えすることができています。しかし、「感染予防対策」と「多くの方に博物館を楽しんでいただくこと」の両立は容易ではないと日々感じています。withコロナ時代に向けた博物館の挑戦はこれからも続きます。

安田 英生(生涯学習課)



写真1
立ち位置表示による間隔の確保



写真2
手指消毒用アルコールの設置確保